

# 令和元年度 自己評価書・学校関係者評価書

■ そう思う ■ どちらかといえば、そう思う ■ どちらかといえば、そう思わない ■ そう思わない ■ 無回答

## ①豊かな心をはぐくむ教育の推進

1 一人一人の児童生徒の尊重	2 友達への思いやり	3 道徳・心の教育の充実
<p>学校は、一人一人の子どもを大切にしたい指導や対応ができていますか。</p>	<p>子どもは、友だちとなかよくしていると思いますか。</p>	<p>学校は、豊かな人間性を育む心の教育の充実に努めていますか。（礼儀、生命尊重、思いやりなど）</p>
<p>【学校から】○「一人一人の子どもを大切にしたい指導や対応」については、保護者・生徒の「4」「3」を合わせた割合は、昨年度とほぼ同じである。教職員では「4」の割合が増えてきており、各担任は生活ノートで生徒と交流したり、学級通信などで活動の様子を発信するなど生徒の良さを大切にしようとしている。○生徒は全体的に素直で落ち着いた生活ができており、「友達への思いやり」について生徒の「4」が8割を超え、良い雰囲気を作っている。しかし、「2」「1」の生徒もおり、その原因はどこにあるのか、「道徳・心の教育の充実」を図りたい。学校から保護者へは、本年度からホームページを刷新し保護者の閲覧も増加している。リンクしている学校便り等を通じて、教育方針・目標や学校での様子をさらに伝えていきたい。</p>		

## ②確かな学力を育む教育の推進

4 意欲的な学習態度	5 授業力向上	6 ICT活用
<p>子どもは、意欲的に授業に取り組んでいると思いますか。</p>	<p>先生方は、わかる授業、楽しい授業づくりに努めていますか。</p>	<p>先生方は、ICT機器を活用してわかりやすい授業づくりに努めていますか。</p>
<p>【学校から】○「意欲的な学習態度」について生徒の「3」「4」の割合は昨年とほぼ同じである。昨年より、電子黒板の導入により資料の提示の方法がなされたこと、今年度から生徒用タブレットが導入されたことにより思考の可視化や、協働的な学びが高まってきており、今後さらなる研修で学力の充実を図りたいと考えている。○「授業力向上」においては保護者・生徒とも「2」「1」があり、勉強が「わからない」「楽しくない」という子どもが存在するということを謙虚に受け止め、一人一人の子どもたちへ更に目を向けていきたい。</p>		

## ③健やかな体を育む教育の推進

7 健康づくり
<p>子どもは、好き嫌いをなく食事をし適度な運動と十分な睡眠に気をつけて生活していると思いますか。</p>
<p>【学校から】○健康づくりについては、保護者・生徒の「3」「4」を合わせた割合がほぼ同じである。昨年の学校保健委員会の調査では、朝食を取らない生徒、睡眠時間が少ない生徒、休日のSNSの使用時間が長時間になるなど課題が上がっている。保健だより等で保護者への協力を呼びかけるなど進めたい。</p>

## ①いじめ不登校などに対する相談支援体制の充実

## ②特別支援教育の推進

8 児童生徒理解	9 いじめや問題への対応	10 学校の支援体制
<p>先生方は、子どものよさを見つけ、子どもを理解しようとしていますか。</p>	<p>学校では、いじめや問題があったとき、すぐに話を聞いて対応していると思いますか。</p>	<p>学校は、支援を必要とする子どもの教育について、共通理解を図りながら取り組んでいると思いますか。</p>
<p>【学校から】○「児童生徒理解」、「いじめや問題への対応」については、昨年度と比較して「4」「3」を合わせた割合が保護者・職員はほぼ同じである。しかし、保護者の「4」の割合は約20%で、生徒も含め「2」「1」がある現状を真摯に受け止めなければならない。今後もいじめや問題行動へチームとして、保護者・生徒の思いをしっかり受け止めて組織的に取り組んでいく必要がある。○「学校の支援体制」について、保護者の割合がやや低下している。学校支援委員会の充実や、生徒指導上の問題や不登校対策など学校、学年での組織的な教育相談体制をさらに充実させていく必要がある。一人の生徒を全体で見抜く「チーム学校」として対応する体制を構築していきたい。○年間指導計画に沿って人権教育を実施し、日頃から人権意識を喚起してきた。問題が起こった時にはその都度、問題解決に努めている。一人一人の子どもを大切にしているという意識をもって教育を進めているが通信や懇談会、教育相談などを活用し、子どもたちの様子を伝えながら、保護者との連携を密にしていきたい。</p>		

## ①子どもたちの身近な安全対策の充実

## ②最適な学習環境の整備

### 11 安全と事故防止

学校は、子どもの事故防止などの安全教育に取り組んでいると思いますか。

保護者  
生徒  
教職員

0% 20% 40% 60% 80% 100%

【学校から】「安全と事故防止」について、「4」「3」の割合がほぼ9割近く、武蔵中校区少年非行防止ネットワークを中心とした校区パトロールや情報交換、交通安全指導、事故防止対応などの取り組みが行われている。また、地震・火災対応、不審者対策などの避難訓練を通して、生徒、教職員の防災意識を高める活動を行っている。保護者の「4」が2割程度という実態から保護者の意見も参考にしていきたい。

### 12 施設・設備の安全管理

学校の施設・設備は、安全でよく整備・管理されていると思いますか。

保護者  
生徒  
教職員

0% 20% 40% 60% 80% 100%

【学校から】○「施設・設備の安全管理」については保護者・生徒の「4」「3」の合わせた割合が昨年度とほぼ同じで、教職員がやや上がっている。学校の施設・設備の管理については、定期的な安全点検をさらに充実させ、常に危機管理の意識を高めていきたい。

## ③家庭・地域社会との連携強化

### 13 教育方針・目標の理解

学校は、教育方針や教育目標などを、子どもや保護者地域にわかりやすく示していると思いますか。

保護者  
生徒  
教職員

0% 20% 40% 60% 80% 100%

【学校から】○「教育方針・目標の理解」については、「4」「3」を合わせた割合は昨年度とほぼ同じである。今年はさらに学校教育目標「21世紀をたくましく生きる自律し協働できる生徒の育成」を目指し、学校だよりやPTA総会等で保護者や地域へ、始業式や終業式、集会等で生徒へ、職員会議や職員朝会で教職員へ発信してきた。特にホームページによる学校紹介では保護者だけでなく地域へも学校の情報を伝える有効な手段となっている。○「家庭や地域との連携協力」については、本校では学友団やネットワーク会議といった地域連携の活動も多くあり、地域の活動に生徒たちが参加する機会も多い。保護者への活動の様子をさらに紹介したり、教職員も係わりを深めていきたい。

### 14 家庭や地域との連携協力

学校は、家庭や地域と連携・協力しながら教育活動を進めていると思いますか。

保護者  
生徒  
教職員

0% 20% 40% 60% 80% 100%

## ④本校の教育

### 15 1「爽」爽やかな挨拶

子どもは自分からすすんであいさつをしていますか。

保護者  
生徒  
教職員

0% 20% 40% 60% 80% 100%

【学校から】○本校の生徒指導のスローガンである「爽・研・美」については、生徒会の各委員会における活動計画の中に具体的実践として位置付けており、生徒・教職員ともに日々の活動に結びついている。あいさつに対する生徒の意識は高く「4」の割合が高く、地域の方から褒めていただくことも多い。時間を守ることにについては、生徒の「4」の割合が昨年より低くなっている。授業前着席など先を見通した落ち着いた行動を目指させたい。掃除についても生徒の「4」「3」とあわせると9割を超えているが、無言掃除と、主体的な取り組みをさらに徹底していきたい。教職員の「4」の評価は、3つともに生徒よりも低い現状があり、今後も自ら課題意識をもち、対策に取り組み、生徒会活動を積極的に支援していきたい。

### 16 2「研」研ぎ澄まされた時間感覚

子どもは時間を守る行動が取れていますか。

保護者  
生徒  
教職員

0% 20% 40% 60% 80% 100%

### 17 3「美」美しい学校、美しい立ち振る舞い

子どもは学校を大事に（きれいに）したいという気持ちで掃除に取り組んでいますか。

保護者  
生徒  
教職員

0% 20% 40% 60% 80% 100%

### 来年度の具体的な取り組みについて

○今年度の学校教育目標「21世紀をたくましくいきる自律し協働できる生徒の育成」のさらなる充実を目指し、地域、学校、家庭が一体となって生徒の育成に取り組む。そのためにも、刷新したホームページをさらに活用し、地域に開かれた学校づくりをめざしたい。

○「豊かな心を育む教育」の充実のために、道徳教育や日常的なボランティア活動を推進し、お互いの良さを認め合える人間関係づくりに取り組みたい。

○今年度の取り組んだ次の3つの取り組みを柱に、さらによりよい教育環境づくりに取り組んでいきたい。

○「ICT活用研究モデル校」とし取り組んできたことをさらに発展させ、「主体的・対話的な深い学び」を支援するタブレットや電子黒板などのICTを活用した授業づくりを推進し、生徒の「学びへの意欲が高まる」研修を行ってきたい。

○「学校環境緑化」に向け、緑化や掲示、施設の美化に努め、生徒全員で作り上げる学校づくりを目指す。また、地域に生きる生徒の育成のため、学友団と地域清掃活動を中心としたボランティア活動や地域連携を日常的に図りたい。

○「学校業務改善アドバイザー派遣事業」の指定を受け取り組んできたが、ICTの活用で働き方の効率を上げることで、教師に時間的にもゆとりが生まれ、生徒と触れ合う時間や研修や会議の時間を確保し、教育活動をさらに充実できるようにしたい。

○食育や保健面での学習を充実させ基本的な生活習慣の確立を図る。また、心身共に健康な生活を送れるように、より一層の工夫に努めたい。

## 学校関係者評価

○今年は「熊本市学校環境緑化コンクール」、「ICT活用研究モデル校公開授業」、「学校業務改善アドバイザー派遣事業」を中心とした教育活動が印象的だった。

○校舎の真ん中に位置する中庭がたいへんきれいになったこと、さらに、各所に花壇が作られ生徒の心を豊かにする環境づくりが進められている。

○生徒たちは、みんな真剣に一生懸命授業に取り組んでいる。特にICTの活用によって楽しく取り組んでいる様子が伝わってきた。ぜひ、継続して、「分かる授業」、「主体的な授業」づくりに取り組んで欲しい。

○校務支援システムを用いた業務改善の取り組み、空き教室の活用など教師にも生徒にとっても、時間的にもコミュニケーションづくりにも効果のある活動だと感じた。また、ZOOM機能を用いた授業や集会活動は、今後、さまざまな活動をうみだすアイデアだと思う。

○武蔵校区は地域活動が熱心で、中学生も積極的に参加しているのがよい。今後も継続して欲しい。

○近隣は交通量が多く、JRの踏切もあり、用心が必要な場所も多い。地域でも安全指導をしていただいているので、学校でも子供たちの意識を高めて登下校するよう今後も指導して欲しい。また、挨拶を良くしていると聞くので、これからもその気持ちと行動を大切にしたい。